

募集

公益社団法人 私立大学情報教育協会 平成25年度 大学教職員の職能開発開催日程・募集概要

平成25年

月日	会議名	会場
7月17日(水)～19日(金)	大学職員情報化研究講習会[基礎講習コース]	浜名湖ロイヤルホテル(浜松市)
8月1日(木)	教育改革FD/ICT理事長学長等会議	工学院大学
8月10日(土)	ICT利用による教育改善研究発表会	東京理科大学 森戸会館(東京、神楽坂)
8月27日(火)	大学情報セキュリティ研究講習会	学習院大学
9月3日(火)～5日(木)	教育改革ICT戦略大会	アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)
9月4日(水)	短期大学教育改革ICT戦略会議	アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)
11月予定	大学職員情報化研究講習会[応用コース]	都内大学予定
11月26日(火)	第8回 臨時総会	アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)
11月30日(金)	教育改革事務部門管理者会議	アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)

平成26年

月日	会議名	会場
1月9日(木)	新年賀詞交歓会	アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)
3月予定	FDのための情報技術研究講習会	検討中
3月予定	産学連携人材ニーズ交流会	検討中
3月28日(金)	第9回 臨時総会	アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)

ICT利用による教育改善研究発表会

日 時：平成25年8月10日(土) 10:00～15:00

場 所：東京理科大学 森戸記念館(東京、神楽坂)

主 催：公益社団法人私立大学情報教育協会

後 援：文部科学省

参加対象：国公立大学・短期大学の教職員、賛助会員

全国の国公立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT利用によるFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上を図ることを目的として、平成5年より実施しています。

最も優れた発表に対しては文部科学大臣賞を、またこれに次いで優れた発表に対しては協会賞を授与し、その教育業績を顕彰します。

大学・短期大学では、教育方法の改善、教員の意識改革、教育業績の評価など、個々の教員はもとより組織としてのFDへの取り組みが課題となっています。この発表会は、今後の教育活動に示唆を与えるものですので、大学教職員の皆様におかれましては、ぜひご参加下さい。

【本発表会のねらい】

教員個人や大学・学部等組織レベルでのICTを利用した教育改善の取り組みと効果を公表することで、教育方法の改善、教員の意識改革、教育業績の評価など、大学・短期大学の課題の解決策を提案し、教育の質的向上を図る。

本年度発表件数：33件(発表一覧は後掲のWebをご覧ください)

参加費 加盟大学・短期大学、賛助会員：8,500円（税込）

非加盟大学・短期大学：17,000円（税込）

*参加者（本協会加盟校に限定）には当日の発表スライド（許可が得られたもの）を後日閲覧できるようにします。

開催要項、発表一覧、申し込みは、下記Webをご覧ください。

<http://www.juce.jp/LINK/houhou/13houhou>



教育改革ICT戦略大会

日 時：平成25年9月3日（火）・4日（水）・5日（木）

会 場：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

主 催：公益社団法人私立大学情報教育協会

後 援：文部科学省

参加対象：国公立大学・短期大学の教職員、賛助会員

テーマ 「大学教育の質的転換への行動」

開催趣旨

「大学教育の質的転換」なくして国・社会の発展は考えられないという危機意識を共有する中で、国及び社会と大学が一体となって人材教育の強化・改革に向けた施策への取り組みが要請されている。とりわけ、文部科学省では平成29年度までの実行期間を示した「大学改革実行プラン」の中で、改革に対する国としての支援の方向性、大学で速やかに取り組むべき視点を提示しており、個々の大学での教育改革への行動が問われている。

このような状況を踏まえて本年度の大会は、教育の質的転換に踏み出すために理解しておくべき基本的な考え方を認識した上で、教学改革に着手している施策と課題について理解を深め、着実に改革行動に入れることを目指す。また、公募によるICTを活用した教育や支援の事例紹介、大学・企業連携によるICT導入・活用事例紹介（ポスターセッション）を通じて、各大学の取り組みや現状を把握するとともに、教育ならびに支援の改善策を模索する。

9月3日 全体会

【大学改革を支援する国の施策】

学生の主体的学びの確立に向けた大学教育の質的転換～大学改革実行プランを踏まえて～

社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出など、我が国の発展に果たすべき大学の役割は極めて大きく、かつ多様である。現下では大学改革は待ったなしの状況で実行が求められており、これを行動あるものとするには、5年計画による国の支援策が必要である。教育の質的転換、グローバル化への対応、地域再生への対応、大学のガバナンス強化を目指した国の支援策を確認し、教育改革に結び付ける。

文部科学省 高等教育局高等教育企画課高等教育政策室室長 田中 聡明 氏

【産業界からみた教育改革】

日本再生に向けた教育イノベーション

卒後の職場や社会で直面する課題に常に答えはなく、自ら答えを見出す教育に大学が対応しているか否か、社会の評価は低い。これまでの知識伝達型の教育だけでは大学の存在価値はないと言えよう。自分で答えを見つける力を養うには教養教育と専門教育との統合が重要であり、総合力を培う大学教育の改革が求められている。未来を背負う人材に必要な教育をいかに組織として提供すべきか、日本再生に求められる人材強化の側面から大学教育の在り方について基本的な視点を共有したい。

株式会社ニチレイ 代表取締役会長、中央教育審議会大学分科会委員 浦野 光人 氏

【教育改革のガバナンス強化】

学長主導のカリキュラム改革

学士課程教育を実現するためには、授業科目間の内容の調整を教員との話し合いの中で構築する必要があるが、整理・統合は難しいのが現状である。学位授与方針に沿ったプログラムとの関連の中で、類似科目の削減や問題発見・解決能力を育成するカリキュラム改革は、学長のガバナンス発揮が強く要請されている。理事会と教授会の機能をリンクさせて、その難題に向けて取り組んでいる事例を紹介し、カリキュラム改革の戦略を探求したい。

中央学院大学 学長 椎名 市郎 氏

【教員連携による学修の点検】

教養教育の質保証を目指した到達度測定の組織的取り組み

学士課程教育で学位を授与するには、教養科目と専門科目の統合または連携が必要であり、教員間で共通理解を形成して多面的な観点から学士力に必要な能力を育む工夫が望まれる。その事例として、時代や社会に対する問題意識を培い実践的な英知と創造性を養う全学共通の教養教育の取り組みを紹介し、ラーニングアウトカムズの達成度測定の工夫を通じて、教員間の連携の重要性を認識したい。

創価大学 副学長、学士課程教育機構長 寺西 宏友 氏

【学生の声を反映した教学改革】

学生の声を反映した学びのイノベーション

教育内容の充実を図るために、教員の意見ではなく学生からの意見を全面的に取り上げて専門教育、共通教育、ゼミ、初年次教育、情報教育などの教育の在り方について抜本的な見直しを行い、教育改革に立ち向かっている実践例の紹介を通じて、学生の声をフィードバックして大学・短期大学教育の効果を検証し、教員一人ひとりの理解と協力をとりつける教育改革の工夫について、効果と課題を共有したい。

武庫川女子大学 法人室次長 瀧居 豊 氏

【質保証のシステム】

学修ポートフォリオを活用した教育の取り組み

学びの振り返りを通じて、自主的に学修に向き合えるようにするとともに、学修成果の達成度を明確化させ、カリキュラムの見直しまで働きかける学修ポートフォリオシステム導入の意義と活用法について実践例を踏まえて紹介し、質保証システムに求められる学修ポートフォリオの機能と課題を整理する。

帝塚山大学 学長 岩井 洋 氏
大阪府立大学 高等教育推進機構教授 星野 聡孝 氏**【教育改善モデルの提案】**

未知の時代を切り拓く人材育成を考える

生涯にわたって未知の時代を切り拓いていく「気概」「考え抜く力」「思いやる力」という人材の育成を目指して、学生一人ひとりが自分の考えをもって地域・社会をはじめ、地球的な市民社会の形成に自主的に関わられるようにするため、5年先の教育改善モデルの在り方を提示し、大学として組織的に取り組むべき改革課題について提言する。

公益社団法人私立大学情報教育協会 事務局長 井端 正臣 氏
本協会 経済学教育FD/ICT活用研究委員長、法政大学 経営学部教授 林 直嗣 氏

9月4日 テーマ別自由討議

【分科会A】アクティブラーニングのためのPBL（課題探求型）学修

自分で考え抜く力が弱いという教育課題に立ち向かうため、地域や企業の現場力を授業に取り入れ、現場での生きたテーマや問題を発見・解決する事例と、講義形式の授業とPBL授業を重ねた実践的なプロジェクト学修を通じて成功・失敗を繰り返し、学修成果のコンテスト等の事例を通じて、主体的に考え行動できるアクティブラーニングの可能性を探求する。

課題提起：同志社大学 大久保 雅史 氏（理工学部教授）
 大手前大学 芦原 直哉 氏（現代社会学部教授）

【分科会B】ピア・サポートを活用した新しい学修支援の仕組み

学生自らの問題意識で授業や授業以外の場所で上級生が新入生等に対して学びを支援するピア・サポートの成果が重視され始めている。ピア・サポートは、授業の時間外に限定している例や授業そのものをサポートする例など多岐にわたっており、学びの機会を提供する中で自らも学びを進化させることができるなど、大学の新しい学修支援システムとして重要である。二つの大学の事例を通じて、学生目線で学修を支援するための効果的な仕組みを探求するため、制度設計や課題について整理する。

課題提起：法政大学 木原 章氏（学習センター長）
 立命館大学 沖 裕貴氏（教育開発推進機構教授）

【分科会C】地域・社会と協働した実践型授業

地域とつながるプロジェクトを通じて学部横断的な学びを実現し、地域の再生に関わることで知識や就業力を高める協働型授業の事例と、学生の実践的能力向上のために、試行錯誤を行える場としてPBL型学生プロジェクトの実施事例を踏まえて、学士力に必要な能力と社会が求める能力の擦り合わせを行うことで、教育プログラムの見直しにつなげていく方法を探求する。

課題提起：広島修道大学 相馬 伸一 氏（副学長、人文学部教授）
 摂南大学 浅野 英一 氏（外国語学部教授）

【分科会D】教育・研究におけるセキュリティ対策

大学力が日本再生の源であると政府で認識されているように、知を集積・創造する大学の教育・研究活動から派生する情報資産の管理が大きな課題となっている。情報資産の流出・窃取が既に大学でも発生しており、情報セキュリティの管理に対する危機意識を大学全体の問題として共有する必要がある。また、災害から情報資産を守り、大学業務の継続性を確保するための災害時での復旧対策等について理解を深めるために、大学間の連携及びクラウド環境の中で情報資産の二重化対策等、考えるべき課題について認識を深める。

課題提起：本協会 情報セキュリティ研究講習会運営委員会
 独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

その他に以下内容も同時に実施します。

情報交流会：9月4日 / 大学・企業によるICT導入・活用事例（ポスターセッション）：9月4日～5日

参加者（本協会加盟校に限定）には当日の発表スライド（許可が得られたもの）を後日閲覧できるようにします。

参加費 3日間参加（割引）加盟校 25,500円 20,000円 非加盟校 51,000円 40,000円（情報交流会は別）

参加費はすべて税込金額	9月3日（火）	9月4日（水）	9月4日情報交流会	9月5日（木）
加盟大学・短期大学、賛助会員	8,500円	8,500円	4,000円	8,500円
非加盟大学・短期大学	17,000円	17,000円	4,000円	17,000円

開催要項、9月5日（木）発表一覧、申し込みは、下記Webをご覧ください。

<http://www.juce.jp/LINK/taikai/taikai2013.htm>